

研修実施報告書

研修名

東近江圏域合同職員研修（新任・2年目・3年目）

法人名

社会福祉法人あゆみ福祉会

開催年月日

2025年7月3日、7月31日、8月20日、11月27日、2026年3月5日

開催場所

主に蒲生コミュニティセンターにて開催

研修の目的

研修の目的としては大きくは3点。一つ目は、支援の基礎的な部分であり、滋賀県の地であるからこそ”発達保障”の視点を根付いたものにしていくための学習機会、二つ目は各階層別での開催を行うことで、その節目における悩みや自身について振り返る機会を設け、”自分自身のことを見つめる”立ち止まって考える機会、三つ目は法人内外の職員(同期)が集まり研修を行うことで”つながり”を深めていくことに重きを置き切磋琢磨する機会として研修を開催する。

研修の内容

カリキュラムとしては、新任(前期・後期)、2年目(前期・後期)、3年目(1日のみ)と開催日程を設定し、研修としては講義(情勢・発達保障等)とグループワークを組み合わせながら、”聴く””話す”という内容に設定。講師は大学の教授だけでなく、実践現場で積み重ねてきた先輩職員・管理職といった幅を利かせた講師を設定することで、”学び”という視点がより身近になるように設定している。管理職には事前に”YELL”として手紙(これまでのがんばりとこれからの頑張りを伝える)を作成し、受講者への励みとなるような企画を実施した。

研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

特に、新任職員研修では、同じ講師による講義を継続して聴くことで、復習の機会を大切にしました。「初めて聞いた」内容が、その場限りの理解にとどまらず、時間をかけて自分なりの学びとして身につけていくことを期待している。

大学を卒業して入職した職員、キャリアを経て再就職した職員など、職員の背景はさまざまであり、また法人の規模によっては「同期」と呼べる職員集団の形成が難しい場合もある。その

ような中で本研修は、若手職員同士が出会い、同じ立場ならではの悩みに共感し合いながら、つまずいたときにも前を向こうと励まし合える関係づくりの機会となった。

こうしたつながりは、職員一人ひとりが自分らしさを大切にしながら福祉を支える人材として成長していくことにつながるとともに、法人全体のボトムアップにも寄与するものと考えている。

また、ここで培われた学びや関係性は、それぞれの現場に持ち帰られ、日々の支援や地域との関わりの中で活かされていくことが期待したい。

研修の参加者

【全体人数】 53 名

【当該法人の参加人数】 15 名

【当該法人以外の参加人数】 38 名